

本学看護師2年課程通信制卒業生の現状からみた学習成果と課題～教育ニードアセスメントツールを用いて～

著者	高宮 洋子, 金川 治美, 長尾 厚子, 鎌田 美智子
雑誌名	神戸常盤大学紀要
号	10
ページ	129-129
発行年	2017-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00000405/

本学看護師2年課程通信制卒業生の現状からみた学習成果と課題 ～教育ニードアセスメントツールを用いて～

高宮洋子

金川治美 長尾厚子 鎌田美智子

【目的】看護師2年課程（通信制）創設10年が経過し、今日その教育効果の評価検討が求められている。今回本学通信制課程（以後本課程とする）卒業生が臨床で看護専門職者としてどのように機能しているかの現状から学修成果と課題を明らかにする。

【研究方法】1. 2007年～2015年の本課程の卒業生1615名を対象。2. 郵送による自記式質問紙調査。3. 測定用具：「教育ニードアセスメントツール—臨床看護師用—」。本尺度は病院に勤務する看護専門職者として望ましい状態と現状の乖離の程度から教育の必要性を示し7下位尺度35質問項目から構成される。4. 分析方法：SPSS Statistics使用。1) 総得点と下位尺度得点の平均点を全国調査の結果と比較。2) 年齢を4群に、卒後年数を3群に分け下位尺度得点を比較し分散分析を行った。3) 回答のあった497名（回収率30.9%）を対象に「教育ニードアセスメントツール」の35項目の質問項目について主因子法（バリマックス回転法）による因子分析を行い、本課程卒業生の教育ニーズの構造を見た。

【結果】「教育ニードアセスメントツール」の結果、全国調査と比較して総得点及び下位尺度1～Ⅶの得点平均はいずれも中得点群に位置していた。因子分析の結果は累計寄与率60.4で7因子を抽出したが、下位尺度Ⅲ.Ⅳ.Ⅴ.で質問項目の構成に、ツールとの違いを認めた。

【考察】本課程校卒業生が看護専門職者として全国的に平均的な状態で機能していることが示されたことは本課程10年間の教育・学習の成果と言える。